

## カンタベリー地震の被災地クライストチャーチ市において People in Disasters Conference 2016 に参加しました(2016/2/24-27)

テーマ：2011年カンタベリー地震、健康と教育、人間中心の復興、震災5周年  
 場所：ニュージーランド国カンタベリー郡クライストチャーチ市

2016年2月24-27日、ニュージーランド国カンタベリー郡クライストチャーチ市の空軍博物館で国際会議 People in Disasters Conference 2016 が開催され、当研究所から桜井愛子准教授(情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)が参加しました。同会議は、カンタベリー地震5周年のタイミングでカンタベリー郡健康局が主催し、その目的は「人」に焦点を当てながら、カンタベリー地震、東日本大震災、2009年オーストラリア・ビクトリア州森林火災等の被災地における住民や災害対応関係者の経験、被災者や被災地域のレジリエンスに関する研究成果を広く共有することです。災害対応、復旧、復興という災害後のフェーズにおける「人」を中心とした多様なテーマに包括的にアプローチした極めてユニークな国際会議となりました。3日間の会議では、元国連人道・緊急支援調整担当事務次長のジョン・ホルムズ卿、アデレード大学トラウマ・ストレス研究センター所長アレキサンダー・マクファーレン教授等によるキーノート講演、災害対応、復旧、復興に関する6つのプレナリーセッションとともに、メンタルヘルス、公衆衛生、マオリ族、子どもや災害時要支援者、人間行動科学、ソーシャルサービス、コミュニケーション、コミュニティ、リーダーシップ等「人」に関する30にわたるテーマの下で180件の発表が行われました。桜井准教授は、「心理社会面での対応」に関するセッションで、「災害復興期における教育の役割—東日本大震災被災地石巻市の事例」を発表し、復興教育プログラムの実践、観察・参与から得られた大震災後3年間の小学4年生児童の変化を紹介しました。

桜井准教授はまた、クライストチャーチ市滞在中、クライストチャーチ市内中心部の地震被災エリアを訪問するとともに、カンタベリー大学のPaul Miller教授と面会し、カンタベリー大学が構築している「カンタベリー地震デジタルアーカイブ：CEISMIC」の最新状況や教育への利活用に向けた課題について意見交換を行いました。



桜井准教授の発表の様子



市内中心部のカンタベリー大聖堂



カンタベリー地震メモリアルサイト予定地



復興商店街 Re:Start の一角にあるカンタベリー地震に関する情報発信館 Quake City